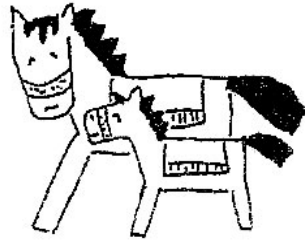


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく〜

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと

29年 11月 NO.276



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

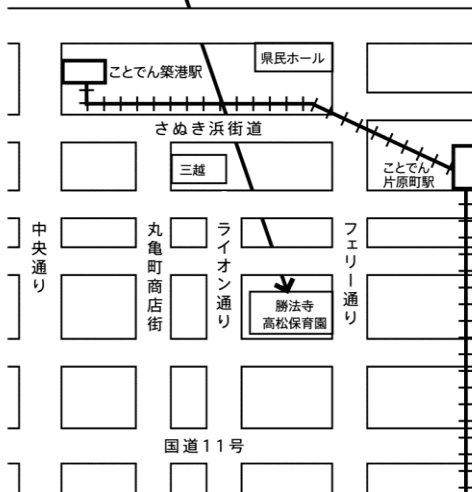
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		11月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
11月 11日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
11月 17日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「みんなで秋を楽しもう！」をテーマに 絵本やわらべ唄、大型絵本で楽しく！
11月 17日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	毛利直子氏（高松市美術館学芸員）による 「鑑賞って楽しい」のトークや「アートで あそぼう」のワークショップもあります。
11月 18日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	からくりおもちゃのパタパタ返しづく りをします。（申しこみ11/10まで）
11月 24日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科医）にゆっくり 相談できます。（予約要）
11月 25日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て 体験においで下さい。

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して  
いますので、親子でご来園下さい。  
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9:00～18:00  
しつけや子育てについての悩み、保育園生活  
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集  
「さみしい王女・上」より

ちいさいその芽をそだてたら、  
三年さきで花が咲き、  
秋にやかわい人形が生（な）って、  
町じゅうの子供にひとづずつ、  
木からもいではわけてやる、  
人形の木が生（は）えるから。

さみしくてもがまんして、  
ちいさい二葉（ふたば）を待ちましょ。  
ちいさいその芽をそだてたら、  
三年さきで花が咲き、  
秋にやかわい人形が生（な）って、  
町じゅうの子供にひとづずつ、  
木からもいではわけてやる、  
人形の木が生（は）えるから。

人形の木  
いっただか埋（う）めた種からは、  
ちいさい桃の木生（は）えましょ。  
たった一つの人形だけど、  
お庭のすみに埋めましょ。





# ママとの長期戦バトル

東京家政大学ナースリールーム主任保育士

井桁 容子

## \* ○どちらが大人？！

ある朝、A君（5歳）のお母さんからこんな報告がありました。

「昨日、息子に、ママ、今日は怒らない日にしたら？っていわれちゃったんです。最近、本当にいうことを聞かないので怒ってばかりいたからだと思いますが…。反省しました」

なるほど、と伺いながら、お母さんが反省しているということなので心配ないと判断し、その時は聴くだけにとどまりました。

次の日、お母さんからまた報告がありました。「息子にまたいわれました。昨日、保育園で、TちゃんとKちゃんという同じ4歳児クラスの女の子2人に“どうしたらママと仲よく暮らせるかって相談した”というんです。相談してどうするの？と尋ねてみると、僕にできることだったらやってみようと思うといったので、笑ってしまったのですが…。子どもにこんなことを考えさせるなんて、私ってだめな母親ですよ」と、苦笑されながら涙ぐんでいました。

この時点でも、私は、おもしろい話と笑える状態で捉えていました。

そしてまた数日後、「先生、とうとう息子にいわれてしまいました！」「今度はどんなことをいわれたのですか？」

「もう、ママとは一緒に暮らせませんっていわれちゃったんです」「そんなことをいわれるほどの心当たりは、お母さんにあるのですか？」

「あります。昨日の夜も、妹（1歳2か月）を寝かしつけないのにAが騒ぐので、妹が眠れなくて大泣きになり、とうとう私も感情が爆発して、大声でAを怒ってしまいました。私は虐待してしまうお母さんの感情が少し理解できます。

昨日は、泣きながら実家に電話をして母に聞いてもらいました。その様子を息子が見ていて、啞然としていました。私自身が大人になれてないことが問題だということも十分わかっているんですが、感情が抑えきれなくて…」

「お母さんとA君の気質は、どちらかというのと似てますよね」と私がいうと、「そうなんです。お互いに出し始めると抑えられなくなります。でも、私のほうが大人ですから、やっぱり私がダメなんです…」と落ち込むお母さん。

「それにしても、お母さんが自分のママに泣きつき、A君は一人でそれを抱え込まなくちゃいけないなんて、反則ですね」

「そうなんです…」

「もしかしたら、A君は、妹が生まれて我慢していることがたくさんあって、寝る時ぐらい独占したい気持ちになるのかもしれませんがね。A君は、言葉での表現がとても豊かなので、お母さんが少し大人扱いしすぎているのかもしれないと思うのですが、いかがですか？まだ5歳ですからね」

「ああ、確かにそうかもしれません…」

## ○A君の本心

しだいに深刻な状況になってきたので、その次の日は私のほうから声をかけるべきか迷っていたところに、在園児の妹を抱いてお母さんがやってきました。「おはようございます」と、私の前を通り過ぎたお母さんが、思っていたように「あっ、そうだ先生！」と行って振り返りました。

「Aのことですが。昨日の夜も寝る前に大騒ぎをしたので、先生にいわれた言葉を思いだして、Aに试试看みたくです。」

あのさ、Aが夜騒ぐのは、いつもお兄ちゃん我慢してるから、時々ママを独り占めしたいんじゃないかなって容子先生が言ってたけど…そんなことある？って聞いてみたくです。

そうしたら、えっ？ええ…？と驚いたような表情をした後に、す〜っと憑き物ものが取れたように何ともいえないふにゃふにゃの表情になって“ほんとだ…そうかもしれない…”といった後、“なんだかくすぐたい気持ちになった…。あははは〜”と笑って、静かに寝てしまいました。

ああ、あの時のAの表情は本当に何ともいえない見たことない表情で、ビデオに撮っておきたかったくらいです。

先生のおっしゃる通りだったようで、私は、やっぱり子どもの気持ちがなんにもわかってあげられてなかったのですね。成長しなくちゃ！

とにかくそんなわけで、もう大丈夫です。ありがとうございました」との報告でした。

A君は、ナースリールームに0歳～3歳までいましたが、とても周囲の変化に敏感でこだわりが強く、ちょっとした変化でパニックになってしまうようなことがよくあり、1歳～3歳までは、噛みつきもかなり頻発し、目の離せない状況がありました。その度に、担当の保育者がていねいに対応し、興奮しすぎないようにA君の気持ちを言葉にしながら「○○だと思って心配になったの？」「パクンじゃなくて止めてっていえたらよかったね」というように共感し、具体的にどうすればよかったかを話していきながら、エピソードの度に次の時に役立つように「知識化」を心がけて配慮しました。その努力の甲斐があって、2歳児になると、パニックになるようなこともほとんど

なくなり、噛みつきもかなり減ってきました。しかし、ある日、1歳児のK君を3日続けて噛んでしまうということが起こってしまいました。原因は、K君が入園したばかりで周囲のことがわからずに、おもしろい遊びをしているA君のところに近づいて行っては、作っているものに手を出すので、保育者が近くにいても時に間に合わないこともあって続いてしまったのです。3日目の噛みつきの状況を、そばにいた保育者に尋ねてみると、A君が「僕の大事なものだからやめて！」って2度、K君の手を振り払って、3回目に手を出した時にとうとう噛みついてしまったということでした。

当然、そばにいた保育者の配慮が十分だったとはいえませんが、A君は、2日間続けて噛んでしまった自分のことを反省していたので、3日目は自分の気持ちをコントロールしていたことが、その様子で伺えます。しかも、3日目に噛んでしまった時に、K君の泣き声で状況が察しられて、私が急いで駆けつけた時には、A君は困ったように下を向いて立っていました。自分がしてしまったことをしっかりと感じていたことが確認できました。

さらに驚いたのは、噛まれて泣いていたK君に私が「怪獣に噛まれたのかな？おてて見せてくれる？」と声をかけると、何と2歳になったばかりのK君が「いたない！（痛くない）せんせい、あっち行って！怪獣いない！」といったことでした。K君も、自分がしつこく手を出した自覚があつての言葉だと思います。



### ○やわらかな心を大切に応援したい

こんなふうに、3歳までに自分の感情をしっかりと表現し、実感を伴った納得と解決を積み重ねた日々の中で、A君の心は育っていきました。

5月のある日、お母さんについて妹を迎えに来たA君に、「あら嬉しい！先生の誕生日にA君に会えるなんて」と私がいうと、「じゃあ、誕生日の歌を歌ってあげるね」と、今通っている保育園で覚えた誕生日の歌を歌ってくれました。「ありがとう！本当に素敵なプレゼントです！！A君が素敵なプレゼントになりました！」とA君を抱きしめると、手が盛んに顔にいくので、よく見るとA君は泣いていて、涙をぬぐう仕草だったのでした。なんてやわらかな心の人でしょう。私も感動して涙が出ました。

これほどにやわらかな心の持ち主が、お母さんとなんとかうまくやっていきたいと表現して努力している…。なんとか助けてあげなければなりません。親子は似た者どうしもあるとあって、いつも同じ状況に陥りがちです。関係性もパターン化しやすいのです。そんな時こそ、保育者の出番ですね。そのためには、保護者が些細なことをぽろりとこぼせる雰囲気づくりも、登園や降園時には大切です。